

太陽光発電所でアルミ導体CVケーブル採用事例増加中

古河電気工業／SFCC

トラフ内での処理作業



「らくらくアルミケーブル」が、山梨県のメガソーラー発電所に採用されたと発表した。近年多発する銅線の盗難に対する防止策として、有効性が期待されている。

古河電気工業（東京都千代田区）とSFCC（神奈川県川崎市、電線製造・販売の合併会社として古河電工と昭和電線ホールディングスにより2019年8月に設立）はこのほど、高機能型低圧アルミ導体CVケーブル

同製品は、古河電気工業と古河電工産業電線（東京都荒川区）が開発製造する。専用端子・端子台・接続材料・工具等の必要部材をパッケージ化した。同ケーブルはケーブルの作業効率を改善でき、天候がすぐれない中、工期通りに早期復旧を実現した。同ケーブルはケ

発電所のケーブル盗難防止に貢献

古河電気工業 坂口豊彦氏（中央）、同社 波瀬茂氏（右）、古河電工 櫻井裕士氏（左）



が容易である他、敷地に「らくらくアルミケーブルTM」を使用している旨を表記した看板が掲げられ、盗難防止に成果を上げている。

化して、「らくらくアルミケーブルシステム」としてSFCCが販売している。C「らくらくアルミケーブルTM」は、アルミ導体を使用しており、「かるい」「かたん」「柔らかい」といった特長により、施工時の省力化に貢献する。銅に比べて地金相場変動リスクが少ないので、初期投資抑制に繋がる。

今回、採用したメガソーラー発電所では、ケーブル盗難被害が発生し、早期復旧および盗難防止を課題としていた。現場の作業効率を改善でき、天候がすぐれない中、工期通りに早期復旧を実現した。同ケーブルはケーブルの作業効率を改善でき、天候がすぐれない中、工期通りに早期復旧を実現した。同ケーブルはケーブルの作業効率を改善でき、天候がすぐれない中、工期通りに早期復旧を実現した。



同社では、産業用太陽光発電所の建設と見る。建設現場では、人手不足や高齢化が深刻化しており、作業の省力化の必要性が一段と高まっていることも追い風となっている。2024年度までに、同製品の売上高を20億円に拡大する計画だ。

